

(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

このたび以下の研究を実施いたします。本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【研究計画名】 トウレット症候群に伴う重度振戦に対する脳深部刺激療法：治療転帰に係る臨床的因子を探る縦断研究および国際レジストリ

【研究責任者】 脳神経外科 医師 木村唯子

【本研究の目的及び意義】

トウレット症候群は、音声、運動性チックが1年以上持続する病気で、音声により就学や就労できない、また激しい振戦、不随意運動、運動性チックではケガをするなど生活に支障を来すことがあります。お薬による治療が主体で、多くの患者さんは青年期に症状は自然に改善することが多い一方、一部の患者さんでは症状が持続して生活に多大な支障を生じます。このような、トウレット症候群に伴う難治性振戦の患者さんに、脳深部刺激療法(Deep Brain Stimulation, DBS)は世界中で有効性が認められつつあります。一方、日本ではまだDBSを受けている患者さんは少なく、治療効果、副作用などの詳細が不明瞭なことも多くあります。

本研究では、患者さんの臨床症状、手術所見、手術後の効果、副作用などを観察することで、どのような患者さんに手術効果が出やすいのか、副作用を生じる可能性などの指標を明確にすることで治療成績の向上と副作用の軽減に役立てることを目的としています。

【本研究の実施方法及び参加いただく期間】

対象となる方

2019年7月1日より2023年3月31日までの間に、トウレット症候群に伴う重度振戦に対する脳深部刺激療法を受けた未成年患者さん

利用する試料・情報等

情報等：診療録(年齢、性別、診断名、病歴、運動、音声チック症状、TETRAS、YGTSS、MRI、SPECT、神経心理検査の結果、術中微小記録、電極位置、術後合併症)

研究期間

2019年7月1日より2024年3月31日まで

【共同研究機関】

なし

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属 脳神経外科 氏名 木村唯子

e-mail: yuikkmr@ncnp.go.jp

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail: ml\_rinrijimu@ncnp.go.jp